



お正月気分を満喫!

1

月号

1999 No.305

広報わしま／1月号

平成11年1月1日発行

発行 和島村役場
編集 企画観光課

〒949-4511 新潟県三島郡和島村大字小島谷3434-4
TEL 0258-7474 FAX 0258-7479

「相続登記はお済みですか月間」のお知らせ

新潟司法書士会では、今年度も2月の1カ月間を「相続登記はお済みですか月間」として無料相談を実施します。
親が亡くなり、土地や家屋などを相続しても登記はつい忘れがちです。相続登記は何時までしなればならないとの定めはありませんが、しかし、時間が経過しますと、相続人が続けて死亡したりして相続関係者が増えたり、又書類の取り揃えやその他で複雑になりがちです。
又、最近では、国民の権利意識の高揚、核家族化や住宅事情などによる老後の扶養に関する感情のもつれ等から相続についてトラブルや障害が発生している実情が増

加傾向にあるように思われます。相続が生じた後、すばやく対応すると共に、遺言等、事前の手当も重要な時代となってまいりました。
そこで、新潟県司法書士会では2月1日から2月28日までの1カ月間、相続に関する無料相談を行います。最寄りの司法書士事務所へ是非お気軽にご相談ください。
又、毎週水曜日の午後1時30分から4時まで、新潟県司法書士会館（新潟市古町通13番町）でもご相談に応じております。
◎詳しくは、新潟県司法書士会（☎025-228-1589）へお問い合わせ下さい。



成人の日（1月15日）

◇お詫びと訂正◇

先月12月号の2ページで「平成10年度予算執行状況」の年度に誤りがありました。ここに深くお詫びし、訂正いたします。

正 平成10年度
誤 平成9年度

人口の動き

11月末人口	
人口	5,276人（-4）
男	2,551人（-4）
女	2,725人（±0）
世帯数	1,293世帯（-2）
（ ）内は前月比	

暮らしのワンポイント

きれいに盛りつけられたおせち料理は、お正月の雰囲気を取り立てます。でも三日が日を過ぎると、さすがにおせちにも飽きてきます。そこで、残ったおせち料理をひと工夫して、夕飯のおかずやお菓子などに再生してみませんか。

残ったおせち料理

栗きんとんをクレープに再利用

余ったお刺身は、しょうゆにひと晩つけておき、翌日お茶づけにのせて食べてもおいしいもの。すった白ゴマをかければ、魚の臭みは気になりません。紅白なますは、レタスやカイワレ大根と一緒に、「ゴマ油としょうゆであえましょう。口当たりのさっぱりとした和風サラダになります。
黒豆は和菓子に変身させましょう。サツマイモをゆでて裏ごしし、黒豆と合わせて茶巾絞りに。上品な甘みが喜ばれること請け合いです。栗きんとんは洋菓子に。生クリームと一緒にクレープに包んだり、ホットケーキにのせるとよく合います。
おせちは、どれもしっかり味付けされている料理なので、簡単にリサイクルできます。洋風和風にこだわらず、気軽に再利用してみましょ



お煮しめの残りや、かまぼこ、栗の甘露煮などは、みんなまとめてみじん切りにし、米と一緒に炊けば、ポリュームも栄養も満点の炊き込みご飯になります。仕上げにカイワレ大根や三つ葉を散らせば、彩りも鮮やかです。
ニンジンやシタケの煮物は、千切りにしてちらし寿司の具にどうぞ。また、お刺身や荒巻きザケ、カズノコなどが余ったら、手巻き寿司の具になります。ノリのほかに、サニーレタスやサラダ菜で巻いてもきれいです。



年頭の御挨拶

和島村長

久須美 逸郎

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、御家族お揃いで輝かしい希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は村政の推進に対しまして御指導・御鞭撻を賜り、衷心より厚く御礼を申し上げる次第であります。

昨年は政治・経済・社会とあらゆるものが閉塞状況に陥った感があり、現在の我が国はイエローカードからレッドカードが突きつけられている状況であります。

特に、経済界は金融機関を先頭に混迷を極めており、日本長期信用銀行の経営破綻はその最たるものであり、銀行の貸し渋りによる企業倒産が発生するという状況も生まれ、政府は「銀行への公的資金注入は止むなし」との結論に至った次第であります。

また、政府におきましては景気浮揚対策として、公共事業の前倒

しや特別減税、更に、経済特別対策等諸々の施策対応を図っているものの景気は一向に向上かず、今後発行されます「地域振興券」に至っては、賛否両論の中、効果は予測できないところであります。

長引く経済不況は当然のごとく地方へ押し寄せ、地場の大手企業の会社更生法の適用をはじめ、経営のリストラに伴う規模の縮小や工場の休止・閉鎖を余儀なくされ、再雇用希望者の不雇用や新卒者の雇用の道も閉ざされ、戦後かつてない雇用状況となっております。

更に、時代が反映させるのか和歌山・新潟・長野県等における毒物混入事件が発生し、日本中を恐怖のどん底に突き落としており、こうした事件が続発しているところに現在の日本社会の病状の重いことが感じられ、毒物混入事件を多発させる深層構造が日本社会に存在していると思うところであります。

さて、地方財政を取り巻く環境は極めて厳しく、税収の落ち込みと共に多くの債務を抱え、限られた財源の重点配分と経費支出の効率化は不可欠であります。

「少子高齢化社会」を迎え、特に、平成十二年には公的介護保険法が施行されます。

和島村と致しましては、平成十一年度において「デイサービスセンター」の建設を予定致しており、更に、マスコミ等で多々論議されてまいりました介護認定につきましては、広域対応を図ることと致しまして、郡内の町長さん方との協議を重ねた結果、和島村に介護認定事務の拠点を設置することとし、現在準備作業に入っているところであります。

公的介護保険につきましては、新制度の発足であることから、市町村におきましては試行錯誤しながらと言うのが実体であり、当然財政負担や事務量に伴う人的負担を強いられるものであります。

しかしながら、今日の和島村の発展、ひいては国家に貢献されて来られた高齢者の皆様方に対する福祉対応は当然であり、安心した老後を送っていただくと言うことは、福祉施策の最たるテーマであると共に、行政の責務と考える次第であります。

国県の大規模プロジェクト事業につきましては、長期計画の中で工事が進められているところであり、和島バイパスの良寛の里への一部供用と阿弥陀瀬トンネルの供用が予定されており、村につきましては、中沢農業集落排水処理場の完工、そして、デイサービスセンターの建設と新たな村づくりのインフラ整備がなされてまいります。

また、計画的に進捗致しております一般国道一一六号和島バイパス並びに県営圃場整備事業・郷本川の河川改修・特環公共下水道事業等につきましては、引き続き早期完工を関係機関に対しまして鋭

意陳情並びに要請を申し上げ、間近に迫る二十一世紀に向けた新たな村づくりを目指して、福祉施策と共に広域的対応と快適環境整備に邁進致す所存であります。

現実的には周囲を取り巻く諸環境は大変厳しいものであります。が、「お年寄りが安心して暮らせる村づくり」「若者が夢と希望を持てる村づくり」「子や孫に誇れる村

づくり」を職員と一丸となり、粉砕努力して職責を全う致す所存でございます。

何卒一層の御支援・御鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます、皆様方

様方の御多幸と御健勝をお祈り致しまして、新年の御挨拶と致します。



新年のごあいさつ

和島村議会議長

高橋 均

新年あけましておめでとうございます。村民の皆様方御家族お揃いで、輝かしい新年を寿ぎしこと、誠に慶賀にたえません。

旧年中は、村民の皆様方より村議会に対し、深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、日本の景気の低迷が続く中、日本経済そのものが根底からぐらつき、全く先行き不透明で、その明るい道筋が見えてこない現状であります。

現下、地方分権、行財政改革と経済構造の変化に対応すべく地方自治体はその重責が背負わされてまいりました。

このような中で本年は、少子・

高齢化社会・複雑多様化する住民ニーズに対応すべく来年度スタートする介護保険制度に備え在宅サービス、地域サービスを提供するために、「デイサービスセンター」、「介護支援センター」を建設するとともに、昨年にも増して事前準備が進められ、体制の整備が図られることになりました。

清潔で快適な住環境整備、延いては自然環境を守るため「農業集落排水事業」、「特定環境公共下水道事業」を継続し、新たに「合併処理下水道事業」の事前調査等が推進されます。

また、国道一一六号和島バイパス建設工事が十一年度の早い時期に一部開通を目指して進められて

います。

今年も昨年に増して地方行財政が厳しい状況下にありますが、村議会は、これらの諸政策を受けて、村当局と共に積極的に取り組んでまいり所存であります。

本年はまた、二十一世紀を迎える最後の年であり、おそまきながら子供からお年寄りが安心して暮らせる「村づくり」をキャッチフレーズに福祉元年と位置づけ、これを推進してまいりたいと思っております。

村民の声が如何に的確に村政に反映されるか。これは、村民代表の地方議会人としての使命であり、正に、この基本原則にかえり、より研鑽を積みあげてまいるところ

であります。

来たる二十一世紀に向けて、益々地方分権が進み、議会機関として責務が問われてきます。

議員一人ひとりが今一度、何を果たすべきかを見つめ直し、最大限の努力をする決意を新たにすものでもあります。

本年も、村民の皆様方の御支援・御提言を議会に賜りたくよろしくお願い申し上げます。

平成十一年が村民の皆様にとって幾久しく、豊に繁栄でき、健康で幸多い年でありますよう御祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。

明るい家庭づくり 運動作文

和島村青少年育成村民会議
和島村教育委員会



大すきなおねえちゃん

島田小1年 はやかわ なるみ

わたしがかぞくで一ばんすきなのは、おねえちゃんです。おねえちゃんときどきけんかするときもあるけど、どうしてもおねえちゃんがすきです。

きょねんのふゆです。わたしがかぜをひいて、そとであそべなかつたときに、おねえちゃんがゆきをげんかにもってきてくれました。そとはゆきがふっているのに、わざわざバケツいっぱい、つんできてくれました。うれしかったです。

おねえちゃんは、赤いみとかをもってきてくれました。そして、

おとうとわたしとおねえちゃん、ゆきうさぎをつくりました。わたしは、ゆきうさぎをつくらうれしかったです。

あと、ときどきいっしょに、おふろにはいってくれます。おねえちゃんが上におゆをなげて、わたしが、せんめんきですくいます。それが、すごたのしいです。

おねえちゃんは、ゆうごはんがおわって、二かいにいくとき、わたしに、「なる、でんきがついてないから、いっしょについてきて。」といえます。そういうと、わたし

は、ついていってあげます。おねえちゃんは、ノートやおりがみをつくります。おりがみでどうぶつをつくって、まくらもとにそっ



お手つだい

桐島小1年 おぐろ りか

わたしは、よくおかあさんのお手つだいをします。このあいだのよるも、おかあさんといっしょにてんぶらをあげました。おかあさんは、

「子どもは、あげるときやけどするとあぶないからきをつけてね。」といいました。わたしは、お手つだいでできることがうれしくて、大きなこえで

「うん。」
といいました。あげたものは、エビ、イカ、れんこん、ピーマン、さつまいもです。わたしは、おかあさんにいわれたとおりに、ボールにこむぎことたまごと水をいれて、ときどきこおり水でひやしなから、かたまりがなくなるまでまぜました。そして、わたしがころもをつける時、おかあさんがつきつきとあげていきました。わたしは、たのしくていっしょけんめいに、ころもをつけました。エビは、おなべにいれたとたん「くるっ」とまるくなってとてもおも

とを言っていました。
わたしは、お手つだいをしていると、おうちの人がよろこんでくれるので気持ちよくなります。おうちの人たちからもほめてもらえます。おにいちゃんも楽しくなって、にぎやかにあそぶことができます。こんな家が『明るい家

とを言っていました。
わたしは、お手つだいをしていると、おうちの人がよろこんでくれるので気持ちよくなります。おうちの人たちからもほめてもらえます。おにいちゃんも楽しくなって、にぎやかにあそぶことができます。こんな家が『明るい家

とおいてくれます。そんなおねえちゃんが、大すきです。これからもなかよくしてね。

しろかったです。また、すこしかわいそうなきもしました。
つぎにイカをいれたら、すごい音で「びちっ、びちっ」とはねてあぶらがとんできたので、びっくりしました。おかあさんもびっくりして、

「キャー、キャー。」
といっていました。
ごはんのとき、かぞくみんなでおかあさんとわたしであげたてんぶらをたべました。おにいちゃんもおばあちゃんもおとうさんも、「とてもおいしいね。」
といってたべていました。おにいちゃんは、エビが大すきなので、エビばかりたべていました。

またこんどおかあさんとりょうりをつくりたいです。こんどは、ハンバーグをつくりたいです。また、わたしはおふるそうじやかいだんふきやおせんたくなどのおお手つだいも、ときどきしています。おばあちゃんやおかあさんにたのまれるからです。でもわたしから

てい』かなあと 생각합니다。
わたしはこれからも、お手つだいを つづけていこうと思います。それから、べんきょうもしっかりやっていきたいです。ピアノやしゅう字をならっているの、これらがなばつづけていきたいです。



わたしの家は明るい家てい

島田小2年 大矢 さゆみ

わたしは、お手つだいが大すきです。なかでも、おかあさんのお手つだいが大すきです。

お米とぎをよくやります。わたしは、

「なんごう、とぐの。」
ときいてとぎます。朝、おかあさんが、スイッチをいれます。家でよくおいしいごはんを食べます。

わたしがとくいなおりのりのお手つだいは、やさいを切るのと魚をさばくことです。
おじいちゃんのお手つだいもやります。日曜日になると、おじいちゃんが、

「さゆみ、お手つだいしてくれるかな。」
と言います。春には、おじいちゃんといいたけやアスパラのしごとをしました。学校から帰ってくる時、しいたけのバックづめをします。夕方からは、アスパラをきかいかけて、きまった長さに切っていくきます。

おとうさんのお手つだいは、ふ

いるうちにたのしくなってきました。またやりたくなってきました。
こんど、なんのお手つだいをしようかな。たのしみです。

くろあけです。わたしは、じょそうざいのふくろと米のひりょうのふくろをあげました。
わたしは、おかあさん、おじいちゃん、おとうさんのお手つだいをしている、やってよかったなあと思います。

わたしは、この前『明るい家てい』というこぼをきいたので、どんなものだろうと思っておかあさんに聞いてみました。
「すねてばかりいると『明るい家てい』にならないわね。たすけあって楽しいことがいっぱいあるうちにしたいね。」
と言いました。おじいちゃんは、

「楽しくて、がやがやとしてにぎやかな家じゃないのかな。」
と言いました。おとうさんにもきいてみました。おとうさんは、
「おこってばかりいないで、わらうことができる家。わらっているほうがいいから、そういう家のことだと思えよ。」
と、おじいちゃんと同じようなこ

とを言っていました。
わたしは、お手つだいをしていると、おうちの人がよろこんでくれるので気持ちよくなります。おうちの人たちからもほめてもらえます。おにいちゃんも楽しくなって、にぎやかにあそぶことができます。こんな家が『明るい家



はたけのお手つだい

桐島小2年 本間 たく

日曜日、はたけに行ってお手つだいをしました。

さいしょは、お父さんがぬいただいこんのはっぱを切るお手つだいです。だいこんは、ぜんぶで二百本くらいありました。このうち、半分ぐらいを、ぼくが切りました。かまを強くもって、はっぱを切りました。手がいたくなったので、休みました。切ったはっぱは、ごみの山にすてました。

つぎに、だいこんについている土をとりました。このお手つだいは、お父さんといっしょにしました。だいこんを左手にもって、ぼくも右手で土をおとししました。お父さんは力があるので早くできました。ぼくは力がないので、あまり早くできません。

土をとっただいこんを、ぼくがかごに入れました。お父さんとお

兄ちゃんが、少しはなれた車まではこびました。お父さんは、かるともっていました。お兄ちゃんはおもそうでした。赤ちゃんをだくようにしていました。あせをかきながら、何も言わずにはこんでいきました。車にぜんぶはこびました。

こんどは、長ネギをお父さんとお兄ちゃんの三人でとりました。お父さんが、
「スポッとぬけるから、かんだんだぞ。」
と、言いました。だいこんよりはかんだんにとれました。ぬくのはだいこんよりかんだんだったけど、きちんとそろえるのがたいへんでした。

その間に、おじいちゃんはおぶをとっていました。ネギほりがおわたつたので、ぼくとお兄ちゃんのお

二人で、かぶを車にはこびました。十一時ころ「さむいから帰っていいよ。」とおじいちゃんが言いました。ぼくとお兄ちゃんは、お父さんから家までおくってもらいました。はたけしごとは力があるからたいへんだなあ、と思いました。帰ってきてから、お父さんが、



つるみのおばあちゃん

島田小3年 八子 千晴

夏休みに、つるみのおばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんはおびょう気なので、なかなか一人では起きられません。だから、家族四人で、ときどき遊びに行くのです。

つるみは遠くて、出かけるときはたいへんでした。電車に乗るために四時半くらいに起きて、したくをしました。それから、車で長おか駅まで行って新かん線に乗って、東京駅についたら、青い電車に乗りかえました。とってもつかれたけど、大すきなおばあちゃんにひさしぶりにあえるので、わたしはわくわくしていました。

おばあちゃんの家に着くと、わたしとお兄ちゃんは、いっしょにチャイムを鳴らして、おばあちゃん

「とってきただいこんをさっそく食べようか。」と言いました。夕はんにだいこんサラダを作りました。家じゅうで、ぼくが一番食べました。だいこんを食べながらおばあちゃんが、「だいこんほり、がんばったね。」と、言ってくれました。

「いらっしゃい。」とにこにこしながら出てきてくれました。わたしとお兄ちゃんは、おばさんにあいさつをしてから、走っておばあちゃんの前に行きました。おばあちゃんは、「よききたねえ。」と、ベッドの上で起きて、にこにこ顔でむかえてくれました。わたしは、おばあちゃんに、島田小学校のことや友だちのことを話しました。

おばあちゃんが、「学校は楽しいかい。」と聞いたので、

「うん、楽しいよ。家からたくさん歩くんだよ。」とこたえました。おばあちゃんは耳がよく聞こえないので、わたしは大きな声でゆっくりと話しました。

「お兄ちゃんは何才になったの。」と聞かれたので、「八才だよ。」とこたえたら、「大きくなったねえ。」と言って、頭をなでてくれました。他にも、一りん車で遊んでいることや、むずかしいわざのことを話しました。おばあちゃんは、ずっとにこにこしながら、聞いてくれました。

お兄ちゃんも、おばあちゃんとお話をしました。おばあちゃんはおにいちちゃんに向かって、「大きくなったねえ。」と言いました。お兄ちゃんが、「うん、九才だよ。」と言うと、今度はおばあさんが、「二人とも大きくなったねえ。ち



がんばって おじいちゃんおばあちゃん

桐島小3年 早川 美花

十一月二十二日に、おねえちゃんといっしょに、おばあちゃんたちの野さいのとり入れのお手伝い

てくれているのがわかり、とてもうれしかったです。わたしも、おとなになったら、子どものためにはたらいて、お金をためて、いいお母さんやおばあちゃんになりたいです。



朝に必ずする話

島田小4年 高橋 史織

「史織朝だよ。」お母さんがこう言う。「まだ夜だよ。」と私は言っても、またねようとする。するとお母さんが、「もう学校におくれるよ。」と言って、「そんなにねてたのかなあ。」と思ってしまう。私は毎日このお母さんの言葉で起こされる。妹は何かにとりつかれたように、服を着がえてしたくをする。「ねむいよ」と言いながら、起きて服を着がえる。「そんなにねむいなら、ちゃんと夜ねればいいでしょ。」と言いながら、お母さんは朝ごはんを作る。

「だって昨日は、あまりねむくなかったんだもん。」目をとじていればねむくなるか

いちゃんたちが遊びに来てくれてうれしいから、さっきから同じことを何回も言ってるね。」とわらいながら言いました。みんなジュースを飲みながら、いろいろな話をしました。たくさん話をして、次の日の帰る時間になりました。帰る前に、おばあちゃんの部屋にいてあいさつをしました。「おばあちゃん、また来るからね。」と言うと、おばあちゃんはちょっとさみしそうな顔で、「おねえちゃんは何才だったの。また来てね。」

と、やさしい声で言いました。おばあちゃんは、きつと、わたしのことをおぼえておきたいから、年を聞いたんだと思います。せつかく来たのに、おばあちゃんたちとわかるのは、さみしかったです。わたしたちが行くと、とってもよろこんでくれるし、たくさん話ができるので、また今度行くのが楽しみです。

いをしました。畑に行くと、はじめにはくさいをとって車にのせました。

「今日はそうやってねれば。」そう言い合っているうちに時間がどんどんたってお母さんが、「史織、みずえ、もうすぐ七時二十分になるから早くしたくしなさい。」と言う。私と妹は、「今、したくしてるよ。」と言う。私は起きて、またねてしまう時がある。その時、「どうしよう学校におくれるよ。」と言っていそいでしたくをする。「おまえがねてたからいけないのよ。」私はこんな時、お母さんのことを「なんかいやだな。」と思う。そして私は学校に行く。学校に行く中、「あしたは早く起きよう。」と考える。そして、次の日も同じ

つぎに、大根をとりました。大根はなかなかぬけません。やとぬけた大根は、わたしたちみたいにどろんこでした。大根もはくさいと同じように車につまみました。今度はねぎをとりました。とてもいやなおいがして、くさかったけど、がまんして、いっしょうけんめいにふくろにつめて運びました。これで終わりかと思ったら、まだはくさいがのこっていたので、まだはくさいをぬきました。やとぬき終わると、つぎは大根をあらいにきました。はじめにえらんだあらい場に、おばあちゃんがはいったら、ふかかったのでやめて、となりのあらい場に行きました。たわしで、とてもいいねいにあるいました。でも、はくさいのこっている大根は、みんなあらっていませんでした。わたしは、どうしてあれだけせんぶあらってないのかな、あらえないのかな、と思いました。わたしが、「どうして、あれだけあらってないの。」と言って聞いたら、「あれは、つけものにするから、あらわないでいるの。」と教えてくれました。一つべんきょうになりました。ときどき、たわしや大根が流れ

ような朝になってしまおう。
でも休みの日はなぜか早く起き
て、

「今日は、休みだからゆっくりね
ていいのよ。」
と言われる。私はこんな時、お母
さんのことを、「私とせい反対の
人だな。」と思う。

話は変わるけど、デパートに行
くと電気のかさがざってあって、
お母さんと私は同じ電気のかさが
気に入った。
「どの電気のかさがいいと思う。」
とお母さん。
「この電気のかさがいいなあ。」
と私。

「あの電気のかさがいいなあ。」
と妹。お母さんは、
「みずえが言った電気のかさは、
値段がすごく高いから史織が言っ
た電気にしようよ。お母さんも
これがいいと思ったんだ。」
と言った。結局、その電気のかさ
を買った。私は、
「お母さんが私の言ったのを選ん
でくれてうれしいな。」



ぼくのお父さん

桐島小4年 小黒 繁

ぼくのお父さんの仕事は、消雪
パイプの配管工です。
今、お父さんは、ぼくも少年教

室で行ったことのある妙高へ仕事
に行っています。ですから、家を
るすにすることが多くなりました。



家族みんなで参加した 和島inフェスティバル

島田小5年 勝見 麻衣

去年の十月に、和島inフェスティ
バルがありました。私の家では、
家族みんなでこのフェスティバル
に参加しました。

私は初めての参加でしたが、島
田小学校の金管発表と、村で行わ
れている手話の会の発表の二つに
出ました。私の家族は、私の発表
をととても楽しみにしていたよう
です。

まず、金管の発表がありました。
一曲目の「ガール」では、演奏し
ているとちゅう苦しくなってきた
のですが、いい演奏をしたかったの
でがんばってふきました。二曲目
の「森のくまサンバ」では、ふい
ているうちにだんだんきんちょう
しなくなっていました。

やっと二曲の演奏が終わりました。
た。会場では、お父さんやお母さ
んたちが応援してくれていたの
れしかったです。
金管の発表が終わると、あとは
手話の発表だけになりました。手
話の発表の番がくるのを待ってい
る間、とてもどきどきしていました。
た。

いよいよ手話の発表の番がきま
りました。ステージに上がり、位置を
決めると、まぐがゆっくりと上が

と思った。私はお母さんのことが
大好きになったり、きらいになっ
たり、いろいろな時がある。お母
さんの大好きなところは、私がお
ふるそうじをしていると、
「史織えらいねえ。おふるそうじ
ありがとう。」
と言ってくれるところだ。私もそ
のお返しに、
「お母さんもお仕事がんばってね。」
と言う。他には、家に帰ってきて、
「ただいま。」
と言うと、
「おかえり。」
と必ず言ってくれる。私は毎日お
母さんとあいさつをしている。私
が言うとお母さんも返してくれる
のでとてもうれしい。お母さんに
あいさつするのも、気持ちがいい。
これからお母さんに、
「ただいま。」
と言おうと思う。私や妹にとって
お母さんはとても大切な人だと思
う。これからもずっとお母さんと
仲よくしていきたいと思う。

ていきました。会場を見ると、四
人の友達が登場のすぐ前にき
て見えてくれました。私は、少
しはずかしかったです。
まず、手話の先生が、手話であ
いさつをしました。
次に、私たちは「ふるさと」の
一番を手話でどのように表すか、
会場の人たちに説明しました。そ
して、会場の人たちといっしょに
手話をしながら歌いました。
そのあと、私たち手話の会のみ
んなで、手話をしながら三番まで
歌いました。歌っているとき、友
達がいかにやしながら見ていたの
で、私も少し笑ってしまいました。
三番まで歌い終わって礼をする
とまぐがおりました。
「はあ、やっと終わった。」
終わったら、とても落ちつきまし
た。

私になぜ手話をやり始めたかと
いうと、二年生のころおばあちゃ
んから手話を少し教えてもらい、
興味をもったからです。
それで、家族で毎週福祉センター
へ行って、手話を習うことにしま
した。ときどき福祉センターに耳
手話で話をしたり勉強したりして

今まで、毎日のように家にいた
お父さんが、急にいなくなり、初
めのころはさみしかったです。お
父さんも、ぼくたち家族とはなれ
ばなれになり、さみしい気持ちで
いっぱいだったと思います。
お父さんが妙高で仕事をするよ
うになってから、毎日のように、
電話がくるようになりました。時々
電話が来ないことがあります。そ
の時は、つかれているのかなと思
います。考えすぎてしまうと、事
こにあったかな、病気になるってし
まったのかなと心配してしまいま
す。

でも、次の日の夜には必ず電話
が来るので安心します。
お父さんから電話が来ると、必
ずと言っていいほど、
「いつ帰ってくるの。」
とぼくは聞きます。お父さんはき
まって、
「土曜日かな。」
と答えるので、土曜日に来るのを
毎日楽しみに待っています。
近ごろは、寒い日が続いていて、
お父さんのことがさらに心配です。
これから妙高山は雪がふり積もる
ので、ますます寒くなります。
お父さんが土曜日に帰って来た
時は、たくさん着る物を持って、
また、妙高へ仕事に戻ります。ぼ
くみたいに、あったかいおふろに
入って、おいしいおでんを食べべ
ているのかなと、お父さんの生活が

います。
そして、ある日、私はお母さん
から、
「手話つきで歌を歌うんだけど出
てみない。」
と聞かれて、フェスティバルに参
加することになりました。
それから、お母さんと妹と私で
手話の練習を始めました。
まず、お母さんが、歌いながら
手話をしてお手本をみせてくれま
した。
ほとんど手話ができるようになっ
てきたら、次は「ふるさと」の歌
詞を覚えなければなりません。家
でも学校でも、歌いながら練習し
ました。歌詞がなかなか覚えられ
ず、少し大変でした。



明るい家庭づくり

桐島小5年 島倉 由典

気になります。
お父さんがるすの間、ぼくたち
家族は、協力し合って生活してい
かなければなりません。お父さん
がいる時は、自分の事でせい
っぱいで、ほとんどお手伝いはし
ませんでした。

しかし、これからは、自分の事
だけではなく、家族のためにお手
伝いを進んでやりたいと思ってい
ます。ぼくには、一年生の妹と、
保育園に通っている弟がいます。
お母さんやおじいちゃん、そして
おばあちゃんの仕事が少しで
も楽になるように、二人のめんど
うをしっかり見たいと思います。
今年いっぱい、お父さんの仕事
はいそがしく、家を行ったり来た
りする生活が続きます。

お父さんが、がんばっているよ
うに、ぼくも勉強や英語、そろぼ
ん、そして、お手伝いを負けず
がんばりたいです。
早く来年になって、また、お父
さんがいつもそばにいて生活にな
ってほしいです。そして、おとうさ
んと野球やゲームを楽しくやりた
いと思います。



けれど、たくさん練習したので
やっと全部覚えられました。
歌詞を全部覚えたら、三人で合
わせられるように何回も練習しま
した。とちゅうで少しいやになる
こともあったけれど、がんばって
練習しました。
本番では、頭がごちゃごちゃに
なってわからなくなるところも
ありました。でも、がんばって練
習した手話をみんなの前で発表で
きてよかったです。
初めて参加した和島inフェスティ
バルは、きんちょうもしたけれど
とても楽しかったです。いい思い
出になりました。
また家族みんなで参加したいと
思います。



お父さん

島田小6年 船越 定実



ことを教えてもらいました。ほかにもいろいろなことを、教えてもらいました。
ぼくは家族がとても大好きです。これからも家族みんなで協力して、明るい家庭を作っていきたいと思っています。

ぼくのお父さんは大工さんだ。家とか車庫、犬小屋をつくることのできる人だ。

ぼくは、お父さんが家をつくっているところを見たことがある。頭にタオルを巻いている。屋根に上って、くぎをうったり木を切ったりしている。家の高さは、十メートルぐらい。そんなところで仕事をやっている。屋根の上で大工仲間の人と何かしゃべっている。でっかい声でしゃべっているのに何を話しているかはわからない。

お父さんたちは、一日にすごいペースで家をつくる。朝、ぼくが学校に行くときは、木だけの家だった。でも、学校から帰ってきたらかわらがのっていた。黒いかわらがのって、とてもめだっていた。

お父さんたちは、少ない人数であるなりにりっぱな家の骨組みをつくってすごいと思う。ぼくも新しい

い家にすんでみたい。

お父さんの顔は、家にいるときと仕事をしているときでは、少しちがう。好きなボールとか時代劇を見ているときは、笑って見ている。仕事をしているときは目を細くしている。手はおっきくて、指が太い。この手には、秘密がある。金づちで手をたたいて血がかたまったみたいなのがある。思いきりくぎを打つつもりが手を打ってしまったと指を見せながら言っていた。

お父さんの体は筋肉がついていて、屋根に上るときのために太っていない。お父さんは屋根に上ってネズミみたいにならざる動く。だから太るわけがない。

お父さんが家でくつろぐところを、あまりみることがない。なぜかという、休みの日でも家で仕事をしているからだ。

てがんばって動物の世話をしたからじゃないの。」
と言いました。

とにかくぼくはその日からうさぎ小屋の設計を考えたり、うさぎのかい方の本を読んだりして勉強しました。うさぎはぬれるのをきらうことや、ねぎや玉ねぎ・ほうれん草などを食べさせてはいけないことなど、いろいろとわかりました。

そして日曜日、うさぎ小屋作りが始まりました。ホームセンターで金網を買い、木材は祖父に用意してもらいました。うさぎはねこに弱いので地面から八十センチくらいの所にドアをつけ、かぎもつけました。ぼくは、図工の時間に本立てを作っていたので調子よくくぎを打っていたら父に、
「なかなかうまいな。」
とほめられました。妹も一生懸命に手伝っていました。父は、金網を張るところがむずかしいらしく、何度もくぎを打ち直していました。

それから一週間後、いよいようさぎを買いに行きました。店には、ライオンうさぎやロップイヤー、チンチラうさぎなど、いろいろな種類がありました。ぼくたちは、迷わずミニうさぎを買ってきました。灰色と白の毛のうさぎで、生まれてから、まだ一、二ヶ月です。ペットショップで抱かせてもらったと

ています。お父さんは石油をほっている会社でいっしょけんめいに働いています。おばあちゃんとおじいちゃんは、畑仕事や機械の部品をきれいにしたりする仕事で

しています。みんなたまに仕事で失敗することもあるけど、家計を支えるためにがんばっています。ぼくは、学校に行って、仕事はしないけど、おこづかいをもらったり何かを買ってもらったりします。ぼくはお父さん達ががんばって仕事をしているから、おこづかいをもらえているんだあと、とても感謝しています。

家族での役割は、お母さんがほとんどの家事をして、おばあちゃんはお母さんといっしょに家事をしたり料理を作ったりします。お父さんは休みの日だけ、必ず十二時になるとラーメンを作ってくれます。お父さんのラーメンはともおいしいのであきません。おじいちゃん、たまにだけけど、だれも気がつかないうちに、お皿を洗ってふいています。ぼくは、部屋のそうじとペットの世話をします。ぼくの仕事は比較的かんたんだけど、お母さん達は本当に大変な苦勞をしているんだあとと思

います。ぼくの家では、毎年ではないけれど、妹のあんながみんなを集めて話し合います。今までに話し合ったことは、ペットを飼えるわ。」
と聞いてくる。お母さんにも聞く、
「どこがいい。」

くつろぐといったら、たまに、しいやさんという人といっしょにどこかへ行くときだ。行くところは、どこかわからない。ぼくがどこに行くのと聞くと、
「ちょっとしいやさんと行ってくるわ。」
と言ってでかけてしまう。お母さんは、
「パチンコに行ったんじゃないの。」
と言う。ぼくは
「そうか、パチンコにいったんだふうん。」
と言ってテレビやゲームをする。

お父さんは、子供の日とかは、どこかへ連れていってくれる。お母さんとぼくと妹のまみを連れて、妙高や安田、いろいろなところへ連れていってくれる。
「どこへ連れていってくれるの。」
と聞くと、
「どこにいくう。」
と聞いてくる。お母さんにも聞く、
「どこがいい。」



飼い主になった日

桐島小6年 山田 啓介

ぼくは、一年生の頃からずっと動物を飼いたいと思っていました。しかし、家族からは、
「飼ってもすぐあきたり、いやに

か飼えないとか、クリスマスは何をして、何を作るかなどです。今年も、話し合いはしないかもしれないけれど、もしするとしたら何を話し合うか、とても楽しみが必要です。

家族みんなが仲良く生活するためには、いろいろな工夫や努力が必要です。

まず一つ目は、あんなとぼくがけんかをしないということ。ぼくとあんなはしょっちゅうけんかをするので、みんなやめさせるのに苦労しています。けんかはやめようと思っているのに、つい

ついでしてしまうので大変です。けんかをする、ほとんどあんなが勝ちます。なぜだかわからないけど、あんなが勝ちます。ぼくはとても不思議です。あんなは女の子なのに力が強いし、とても女の子とは思えないほど勇気があります。おばけやしきに入った時もあんなは泣かずに笑っていました。二つ目に、みんなが努力して一つのことをやりとげることです。ぼくが何かをするのをすぐにあきらめてしまうと、いつもみんなにおこられます。

「あきらめないで最後までやりなさい。」
と言われて、あきらめかけていたことを最後までやりとげることができた時もありました。ぼくは家族から、努力してがんばるとい

と、お母さんは言う。そんなおしゃべりを必ずする。お父さんは、せっきょうマシンがあまり好きじゃない。ぼくがあれに乗ろうという、
「いい、あとで乗ろう。」
と必ず言う。でも必ず最後は乗ってくる。

ふだん遊ぶのは、キャッチボールだ。お父さんは少し足を上げて、ほうり投げるようにしてボールを投げる。だまって投げるだけでもしろい。たくさん投げるとお父さんがぼてるからやめる。

ぼくは、お父さんがきらいなきがある。それは、おこるときだ。お父さんがおこるとすぐこわいからだ。お父さんが無口になるとおこる証拠だ。なのであまりおこらせないようにしたほうがいい。中学になったらめいわくをかけると思うからよろしく。

ぼくは、お父さんのことが大好きだ。またいっしょに遊ぼうね。
なったりするとかわいそうだから、だめ。」
と反対されていました。ぼくは飼育委員になって、ぼくは飼育委

き小さくてあったかくて、けど少し震えているような感じがして、かわいいなと思いました。帰りの車の中で父に、「うさぎもちゃんと生きていますから、ちゃんと世話をしてくれるんだぞ。」



父と私、そして剣道

北辰中1年 白倉 由貴

「剣道はどんなだ？」父が剣道教室に迎えに来てくれ、その帰りの車の中でそう問いかけてくると、「最低、もうやめたい。」一日に一回は必ず、この「やめたい」を口に出している。私が剣道を始めたのは、六年生の終わりごろ。父が昔、剣道をやってきたからということ、やるはめになった。だから私は父のせいでつらいめにあっていと思うと少し、いや、ものすごくうらめしい気持ちになる。

ぎは元気に冬をむかえようとしています。家族みんなで協力して作った小屋にもよく慣れていきます。ほくも妹も兄弟が一人増えたような気がちで、毎日うさぎの世話をするのが楽しみです。うさぎのじゅ命は、三年から五年と言われていますが、我が家のうさぎはそれ以上に長く長くいてほしいと思います。

だからきとうに言うとおこうと思つた。しかし私が答える間もなく父が、「剣道の先生だろ。」と言つたのだ。その父の発言に私は「ムッ」とした。だって自分が好きでやっているわけでもない剣道を、なぜ大人になってもやらなければならぬのかと思つたからだ。将来の夢のことだから、普通の話をするのかと思つたら、ぜんぜん大違い、やっぱり父は私と話をすると剣道の話になつてしまうようだ。

選んだ。車の中は、しーんとしていた。信号を曲がった時父が、「ジャスコに行つてくるか。」と言つた。どうせまた竹刀とか見るんでしょと思ひながら、「え、うん。」と、のらない返事。ジャスコに着き、父に連れられて行つた所はゲームセンター。「なにすんの？」怒り声で私が言う父の返事は、「プリクラとるか。」驚いた。いつも剣道のことしか話をしない父の口からそんな言葉が出てくるなんて。帰りの車の中でも、ずーっと話をせず帰つた。でも前の沈黙とは少し違つていた。なんだか少し温かい気持ちになつていた。私の手には、父ととつたプリクラ、そのすぐ横には買つてもらつたばかりの竹刀が一本、たてかけてあつた。



強く生きる決意

『ハッピーバースデー』命がかがやく瞬間』を読んで

北辰中2年 山口 実里

強さとはなんなのだろう、幸せてどういふことだろう。この本を読んで、一番考えさせられたことです。

り、弟と比べられたりする時があります。あすかと一緒に「実里が一番かわいいよ。」

あすかが強くなったのは、おじいちゃんとおばあちゃんがたっぷり愛情をそそいでくれたからです。「怒るときは思いきり怒れ。悲しいときは思いきり泣け。がまんなんかするな。感情を殺すことは、生きるエネルギーをなくしてしまふことだよ。じいちゃんがしっか

りして、イヤというほど感情を出しているけど、こういう時には感情を出すことを恐れています。それは生きることを恐れているということ。あすかは感情を持つことで、生きる勇気を持つたのです。生きる勇気を持つことが強くなることなのだと知りました。あすかから見れば私は、自分と重なうつつことでしょう。

あすかは、お母さんから自分がお兄ちゃんとは違うと思われていました。頭の良い、手のかからないお兄ちゃん。そんなお兄ちゃんはお母さんにとっては、とてもいい子だったことでしょう。それに対してあすかは勉強もそれほど良くできず、お兄ちゃんに比べれば何のとりえもない子だったのです。でも私は同じ親の子供で、同じ人間なのに何が違うんだろうと思ひました。私が親なら、何人の子供がいたって比べたりしたくありません。だって、比べたって、その子にはその子の良い所があるのだから。その人にしかできない何かを持って人はうまれてくるのだと思うから。でも、あすかのお母さんはあすかのことをわかつてあげていませんでした。あすかは自分の存在さえ忘れてられているように思ひました。それだけでも、すごく悲しいことなのに、さらに声も出なくなり、あすかは自分の心も体も痛めてしまったのです。

もし正直に、「一番かわいいよ。」なんて言い方はしれないと思います。「私は子供の中であなたが二番目にかわいいよ。」とか言われたら、私は、今以上にその言葉について悩んだりするでしょう。両親が、こんな言い方をしたのは、きっと、その時一番ほめてあげたかった子が、私だからなのだと思います。そして、それは本当の気持ちだったのだと思ひます。もしかしらあすかのお母さんも、チャンスがあればあすかをほめたかったのかもしれない。

あすかが強くなったのは、おじいちゃんとおばあちゃんがたっぷり愛情をそそいでくれたからです。「怒るときは思いきり怒れ。悲しいときは思いきり泣け。がまんなんかするな。感情を殺すことは、生きるエネルギーをなくしてしまふことだよ。じいちゃんがしっかり受けとめてやるから。だから、安心して本当のあすかを出してごらん。」

やがて、おじいちゃんと友達のメグをあすかは短い間に失いました。おじいちゃんはおすかに愛情をくれ、支えてくれました。メグは、あすかの全部を受け入れてくれた人でした。二人が逝ってしまった時、あすかはたくさん泣きました。大好きな人がいなくなつてしまった思ひはどれほどのものだったのでしょうか。それでもあすかは立ち直りました。二人が、心を残してくれたから、二人ともあすかの心に生きるようになったのです。人は心があるから生きていられるのです。二人を残してくれた心には、たぶんたくさん愛情が入つていたと思ひます。自分にも愛情がそそがれているとわかつた時、あすかは幸せを感じたそうです。幸せて愛情が教えてくれるのだと知りました。あすかが強くなったことで、家族もまわりも変わりました。私もあすかのように強くなりました。幸せを見つけたと思ひました。私



とあすかの出会いは本からです。でも私はこの世界に本当のあすかがいるような気がしません。あすかに会っていろいろなことがわかりました。今度はそのことをもとに、私が強く変われるように生きていきたいです。あすかが私に教えてくれたことは絶対、絶対に忘れません。



祖父の死が教えてくれた

北辰中3年 山田 和史



うちの祖父は、十一月六日の真夜中に亡くなった。寝ている最中に起こされ、亡くなったと聞いた時には、あまりにもショックで言葉がでなかった。

祖父はある日突然、調子が悪いし、食欲がないといい、医者にも見ってもらって、入院した。僕が全国大会から帰ってきてまもない時のことだった。病名を聞いた時には本当に驚き、とても悲しくなった。見舞いに行くと、祖父はずっと寝たきりだった。いつも休日は畑仕事や日曜大工、山に山菜を取りに行ったりと、休日にはあまり家に居るといことがなく、ほとんど外に出て仕事をしていた。会社の仕事を今年で退職して、少しは家に居るようになったけど、やっぱり平日も畑や山に行っていたか

をしていたらしい。家に居る時間より外に出ている時間の方が長かったのだ。そんな元気だった祖父が、寝たきりになってしまった。病室から出る時に、

「じいちゃん、頑張れ。」
と僕が言うと、
「おお。」

と片手を上げてこたえてくれる祖父を見ると切ない気持ちになり、涙が出そうになった。

祖父が入院してからというもの、家族での会話はあまりなくなり、夕食の時の会話はほとんど祖父のことだった。もう長くないという絶望感が家族をおおい、本当に暗かった。

だんだんと祖父の容体も悪くなり、祖母が病室に寝泊まりして看病することになったので、夕食を

作ってくれる人がいなくなり、僕が夕食を作るようになった。父も会社から帰ってくると、祖母に差し入れか何かを持っていくといつて、病院に行くことがよくあった。だから夕食は四人で食べるが多かった。やはりその時の会話は祖父のことばかりだった。また見舞いにいったら、祖父の病室は移されていて、四人部屋から、一人部屋へと移されていた。祖父を見ると、祖父は天井を見ながら何かを考えているようだった。最初と比べて口数は減り、体もやせていた。だけど、目はいきいきとしていた。「退院したら何をしようか。」ということを考えていたのだと思う。僕も祖父には長生きしてほしいと願った。しかし、病室は悪化する一方だった。見舞いから帰ると、家族全員が無言になる。みんな考えていることが一緒だったんだらう。

そんなある日の真夜中に祖父の容体はさらに悪化して、ついにそのまま帰らぬ人となった。無言のまま帰宅した祖父を見て、家族全員が涙目になっていた。僕もあまりにも突然だったので、頭の中が真っ白になっていた。祖父が死んだという実感が全く沸かなかった。そして十一月八日に葬式が行われた。ずっと祖父の過去のことを

思いだしていた。あの元気だった祖父が、もうこの世にはいないということを考えてると、とても悲しくなり涙がでてきた。一緒に将棋をしたこと、バイクに乗せてもらったこと、本当に色々な思い出があった。そんな中で、祖父とみんなは永遠の別れとなってしまった。今、あの場面を思い出すと、本当に切なくなってしまふ。けどそこで立ち止まっていたら、何もできないと思う。祖父と共に過ごした十五年間をいい思い出として、ずっと心にしまっておこうと思う。だからいつまでも悲しまないでいようと思う。そして、常に前向きな気持ちでいようと思った。

毎月第三

日曜日は

「家庭の日」

今年／は／卯年

今年**は卯年**。十二支の四番目のうさぎ年です。卯は東の方角、また「卯の刻」といえば、午前六時ごろを指します。

明治中ごろから日本でも飼育

うさぎは、ウサギ科の哺乳類です。うさぎという耳が長く、目が赤く、毛は白、ピョンピョンと跳ねる動物を思い浮かべますが、これはわたしたちがよく見る日本白色種で、ほかにも多くの種類があります。毛が白黒（または白茶）でパンダウサギとも呼ばれるダッチ、耳の下がたろっぴイヤ、耳の短いピーターラビットなどです。

うさぎが家畜化されたのは、十二〜十三世紀ごろといわれ、その後、ポルトガルの航海者が食糧の補給源として各地に広めたとされています。第一次世界大戦ころはヨーロッパ各地で食用、毛皮用にさかんに利用されました。日本では日清、日露戦争のころから、日本白色種が大量に飼育されるようになりまし

うさぎを数えるときに、一匹、二匹と言わずに一羽、二羽と言います。これは、昔、獣肉を食べるのを忌み嫌っていた時代に、鳥のような数え方をうさぎに食べていたからでしょう。うさぎは貴重なたんばく源だったので。

悪役や英雄さまざまな役回り

うさぎの話は、古くは「古事記」に発しています。うさぎが海の上に並んだワニザメをだまして因幡の国に渡ろうとします。しかし、最後にワニザメの怒りを買ってしまい、皮をはぎ取られて苦しんでいるうさぎを大國主命が救うというお話です。

だれもが知っているうさぎの話といえば「うさぎとカメ」です。うさぎとカメが向こうの山まで、どちらが先に行けるか競争します。早いうさぎは、カメがのろいを見て途中で油断して昼寝をしてしまいます。その間にカメがゴールするというお話で、地道に努力すれば必ず成

功するという教訓です。

こうした話は、動物競争物語として各国にあります。ただ勝つ方の動物がカメではなく、ハリネズミ、カニ、ヒキガエル、ナメクジだったりします。負ける方もうさぎだけではなく、ウマ、キツネ、ヒョウ、ゾウなどさまざまです。

もう一つ、日本の昔話で有名なのが「カチカチ山」です。この話にはちょっと残酷なシーンもあるので、最近ではあまり語り継がれないようです。

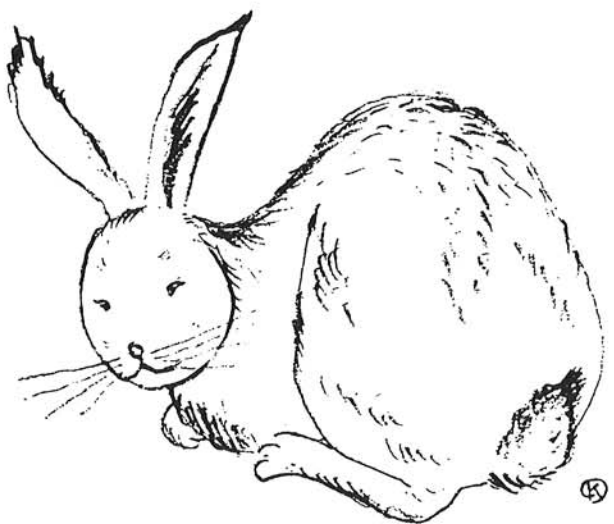
……タヌキにおばあさんを殺されてしまい、嘆き悲しむおじいさんに同情して、うさぎがだ討ちをします。うさぎはタヌキを薪拾いに誘い、タヌキが背負った薪にカチカチと火打ち石で火をつけてやけどをさせます。さらに、タヌキを泥船に乗せて川に沈めてしまいます。

うさぎの復讐という筋書きですが、知恵が勝利をもたらすという点と、弱きを助け強きをくじく勧善懲悪の教えとされています。うさぎは悪役だったり英雄だっ

たり、だましたりだまされたりと、いろいろな役回りをこなしています。

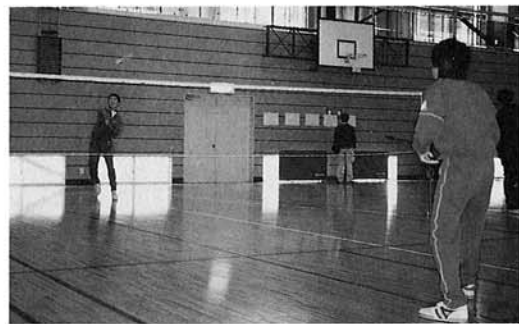
よく知られている月の餅つきうさぎ

うさぎは身近な動物のわりには、親しまれていることわざは少ないようです。「兎死すれば、狐これを悲しむ」「狐死して兎泣く」は、同類の死を悲しむこと。「兎に祭文」は「馬の耳に念仏」と同じ意味で、言っても無駄なこと。「兎



の登り坂」は最も得意とする場所での力を発揮すること。「兎兵法」は生兵法のことで、役に立たないこと。どのことわざもふだんあまり聞きません。

よく知られているうさぎというと、月の餅つきうさぎでしょう。平成十一年用の寄附金付・お年玉付五十円郵便切手および年賀五十円郵便切手の意匠は、「佐原張り子」の餅つきうさぎです。これは、千葉県佐原市の手張りの民芸品です。八十円の方は、「山形張り子」の玉乗りうさぎです。



第21回 村民バドミントン大会

体育協会主催の第21回村民バドミントン大会が12月13日(日)勤労福祉センターで開催されました。大会は、小学生の5・6年の部と中学生男子の部、18名の参加によりシングルスで行われました。小学生5・6年の部はリーグ戦で、中学生男子の部はトーナメント戦で、それぞれ熱戦がくりひろげられました。

結果は次のとおりです。

◎小学生5・6年の部

優勝 早川 貴彬
準優勝 佐藤 裕美子
第3位 笹川 明浩

◎中学生男子の部

優勝 早川 史人
準優勝 本間 康宏
第3位 池内 優
第3位 坂田 恭兵



わし麻呂くん



わし麻呂くんの部屋



生涯学習情報

すべて、ころんで、スケート教室

—少年教室—

少年教室では11月29日(日)、県立柏崎アクトパークを会場にスケート教室を行いました。

参加した64人のうち25人が3年生。今回の教室では、靴ひもを結ぶことが最大の難関でした。「先生滑ってもいい」と言う子どもの足元をみると、あゝあため息がでてしまう。早く滑りたいという気持ちを抑え、靴ひもの結び方を一生懸命に覚える子どもたち。その後、スケートの指導を真剣に受け、みるみるうちに上達する子どもたちは、さすがといった感じでした。最初は転んでばかりで個別指導を受けていた子どもも、時間がたつにつれて、次第に滑れるようになりました。帰る頃には、みんなの顔が自信に満ちあふれていました。

転んだ時の沢山のキズ跡と多くの笑い声をリンクに残して、無事に帰宅しました。

*今年度の少年教室は12月12日(土)をもって閉校いたしました。来年も大勢の参加をお待ちしています。



標柱20本を設置

和島村青少年育成村民会議では、あいさつ運動の標柱を皆さんから募集し、これをもとに標柱を昨年の3月13日に15本、12月10日には20本、計35本を村内各所に設置しました。

少年犯罪が増加傾向にある昨今、犯罪や青少年非行のない明るい村づくり、社会づくりに役立つものと考えます。また、青少年育成村民会議では和島村の子供たちの健全な成長を願うとともに、これからも村民の皆様のご理解とご協力をお願いします。



あいさつは日常生活でもっとも基本となる大切なコミュニケーションです。

身近な講師から学ぼう

—いきいき大学—

11月20日(金)、ゆきわり荘を会場にいきいき大学が開かれました。

当日は、一日受講生として上桐・北野地区リハビリの皆さんをお迎えし、総勢78人の大学習会となりました。

学習計画の大半が外部講師という当大学において、もっと身近な講師から学ぼうと実施された今回の学習会の講師は、今年度の受講生でもあり、10月の生涯学習フェスティバル芸能発表会で発表された経験を持つ、下富岡の田村一彦さん。

「ハーモニカと私」と題した講演では、ハーモニカとの出会いやエピソードなどを交えながら、昔懐かしい唱歌の数々をご披露くださいました。受講生はハーモニカの美しいメロディーに合わせて、歌ったり、ハーミンクを口ずさんだりと、笑顔でいっぱいでした。「ついっい歌ってしまうね」「ばか、いかたいね」といった声があちこちで聞かれ、とても楽しい学習会となりました。

またこの日は、与板警察署の方から「現代おばあちゃんの我がもの交通事情」をテーマとした交通安全の学習と落語の映画鑑賞も行われました。



はたちの献血キャンペーン(1月1日から2月28日)

あなたの善意の献血が 医療に必要とされています

若い世代の協力が
大きな力となっている

みなさんは献血をしたことがありますか。

医療の発展した現在でも、血液を人工的につくることはできません。病いやけがの治療に必要とされる輸血用血液のほとんどは、多くの人の善意による献血で賄われています。献血は医療現場に貢献するボランティアの一つなのです。

献血に協力できるのは16〜64歳までの健康な人。実際の献血者数は16〜29歳が半数近くをしめており、若い世代の協力が大きな力となっています。

献血者が少ない月の献血にご協力を

緊急の事故や災害などがおこったとき、即座に輸血用血液を常時確保しておくことが必要です。

そのため、年間を通して献血への協力が必要とされていますが、実際は、月によって献血者数にバラツキがあります。

特に、2月は1年のうちで、最も献血者数が少なくなる月。安定した輸血用血液を供給するため、ぜひ、この時期に、献血へのご協力をお願いします。

献血の受け付けは献血ルームや血液センター、移動採血車で行っています。(献血ルームは土日でも受け付け可能)。

詳しくは最寄りの献血ルーム、血液センターにお問い合わせください。



11月21日(土)、待望の「川端ふれあいセンター」が完成し、竣工式が行われました。当日は、栢沢県議会議員を始め村長や多くの関係者が多数出席しての式典となりました。この施設は県の農林水産総合振興事業によるもので、地域活動の拠点として、また地域の皆さんが一堂に会すふれあいの場として、今後地域の発展に寄与することでしょう。

新たな拠点竣工



11月27日(金)、地域ふれあい活動の一環で、子どもたちが待ちに待った餅つき大会が保育所で行われました。機械化が進む中、「杵」と「臼」での餅つきに、子どもたちも興味津々といった様子でした。子どもたちはつきたてのお餅をおいちゃん、おばあちゃんとお食べながら、一足早いお正月気分を満喫しました。

つきたてのお餅に舌鼓



冷たい風が吹き、いよいよ冬本番といった11月25日(木)、役場向かいにあるいきいき市場で今年最後の販売が行われました。この日は、1年間の感謝の気持ちを込めて、お客さんに豚汁が振る舞われました。晩のおかずにと新鮮な食材を求めて訪れたお客さんたちは、思いもよらない熱々のごちそうに、一時寒さを忘れて豚汁に舌鼓をうちました。

豚汁に感謝の気持ちを込めて



11月25日(木)、エプロン会の会員13名が巻町にある新潟県農業大学校で「ロースハム」と「肉まん」作りに挑戦しました。この会は農業従事者のお嫁さんたちの情報交換や学習の場として発足、年に数回こうした研修など、活動を行っています。四苦八苦の末、完成したハムと肉まんを試食した参加者は、なかなかの出来栄にとっても満足そうな様子でした。

エプロン会 農業大学で学ぶ



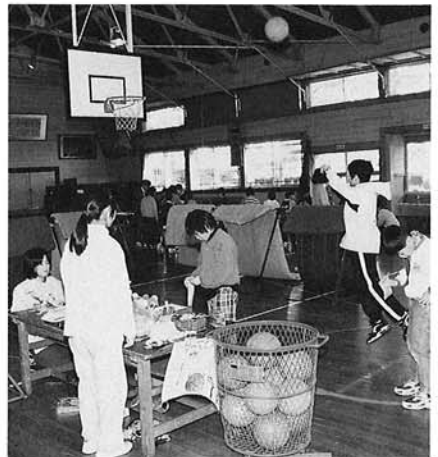
最近ではたいへん懐かしい風景となった「杵」と「臼」を使ったもちつきが12月5日(土)、桐島・島田の両小学校で行われました。まずはお手本とばかりに父兄がもちをつきました。それをまねて子供たちも順番にもちつきにチャレンジしました。つきたてのもちを口一杯にはおぼりながら体育館はしばしの間、熱気と歓声につつまれました。

懐かしの風景



12月4日(金)、島田小学校でずかけ祭りが行われました。児童会が中心となって開催されたこのお祭りは、各教室を趣向を凝らした手作りのゲームコーナーやお化け屋敷に改造、みんなで楽しむというものです。また、入場料やゲーム代にはお金のかわりに「使用済みの切手」を使い、楽しく遊んで福祉にも役立つという、まさに一石二鳥のお祭りでした。

楽しく遊んで、福祉にも

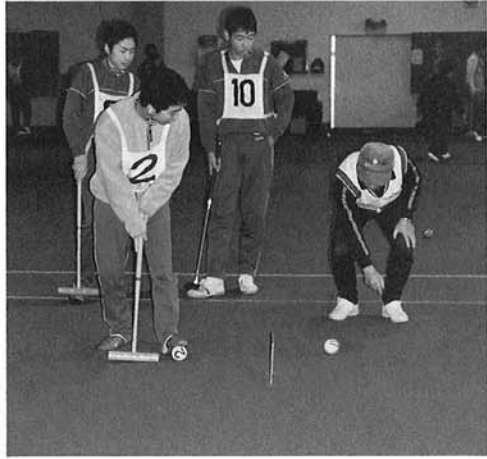


11月21日、12月5日の土曜日、屋内ゲートボール場で、中学生のゲートボール講習会が行われました。当日は、31名が参加して村ゲートボール連盟役員6名による指導を受けました。難しい競技説明や話を聞くよりはという指導者側の配慮から、早速スティック片手にゲーム形式による指導の開始。まず第一ゲートに玉を通過させるのが第一の仕事です。簡単そうに見えてなかなか難しいのがゲートボール。普段、野球のバットや卓球のラケットを扱うのとは、少々勝手が違う様子でした。生徒の中には、小学校時代に経験のある生徒もいましたが、しかしそこはさすがに伸び盛りの中学生。みるみるうちにコツを覚え上達していました。指導者からも「ほー」と感嘆の声があがる程。さらには、「ジュニア大会出場に向けて本腰を入れるか!」という

中学生 慣れないスポーツに四苦八苦!!

ゲートボール講習会

声まであがっていました。空振りや打つ加減が強かったり弱かったりと、なかなか思うようにいかないながらも、仲間同士、笑ったり、悔しがったり生徒たちは楽しい時間を過ごしました。今度この紙面でご紹介する時はジュニア大会出場の結果をお知らせすることになるかもしれませんね。



10月29日から試行的に始まった介護保険認定審査会が11月26日、最終日をむかえました。平成12年度からスタートする介護保険制度については広報8月号でも紹介したところですが、平成11年の10月からは実際に要介護認定の手続きが始まります。これに向けて、三島郡では郡内共同で介護認定審査会の設置を進めています。介護認定審査会とは、介護保険の利用を希望する場合に、調査員が訪問調査を実施し、コンピューターに入力、そして一次判定された結果に間違いがないかなどをかりつけ医の意見書などを参考に審査する会です。

介護保険制度スタートに向けて! 準備作業進む



審査会は、保健・医療・福祉の各分野の専門家により構成されることになっています。そして、審査会での最終判定によって段階別に分けられた保険を受けることができます。10月29日から実際の保険事業の運営を想定したモデル事業として、全5回に渡る介護認定審査会が事務局である和島村で開催され、郡のモデルケース100件を選定し、調査員による訪問調査、コンピューターによる一次判定、さらに保健・医療・福祉の専門家で構成された5人の審査委員による審査が行われました。試行的に行われた今回の審査会では、多くの問題点も指摘され、今後はそれらの解決と、さらなる詰めの作業に入っていくこととなります。

12月6日(日)、幼稚園の園児による生活発表会が行われました。当日は、我が子の晴れ姿を一目見ようとカメラやビデオを片手に大勢の父兄でにぎわいました。また、子供たちは、この日のために一生懸命に練習した楽器演奏や劇、合唱を披露しました。心配そうに見守る家族をよそに、子供たちは元気いっぱい、そして上手に発表していました。

いっぱい練習したよ



10月29日から実際の保険事業の運営を想定したモデル事業として、全5回に渡る介護認定審査会が事務局である和島村で開催され、郡のモデルケース100件を選定し、調査員による訪問調査、コンピューターによる一次判定、さらに保健・医療・福祉の専門家で構成された5人の審査委員による審査が行われました。試行的に行われた今回の審査会では、多くの問題点も指摘され、今後はそれらの解決と、さらなる詰めの作業に入っていくこととなります。

ぼくのわたしの先生



岩永 博子先生

岩永先生は、長岡市出身で現在は島田小学校の1年生・36人の担任です。先生になろうと思ったきっかけは“子供の頃からの憧れ”だそうです。

「とっても明るく、人なつっこい女の子25人と、元気いっぱい活動的な男子11人です。最初の頃は、ワーワー大泣きしたり、大げんかを始めたり、いつもにぎやかで色々なことがありました。最近は少しづつ成長してきて、けんかしても仲直りも上手で、あいかかわらずにぎやかですが、みんな仲良しです」と先生自慢の子供たちを紹介してくれました。

「我慢強く、集中して話を聞ける子になってほしいです」と子供たちへの望みを話してくれた岩永先生は、子供たちの評判どおりのとても優しい先生でした。



島田小学校 岩永先生と子供たち

子供たちの声

子供たちに岩永先生について質問してみました。

― 普段、どんな先生ですか？
子供たち

― 「とてもやさしい」

― 「そんなにやさしいの？」

子供たち

― 「うん、勉強をするときもやさしいし、おしえるのもとても上手なんだよ」

― 「へー、そうなんだ」

― 「それだと毎日勉強が楽しいね」

子供たち

― 「楽しく勉強をおしえてくれるから、とても楽しいよ」

― 「でも、たまに答えを間違えるけどね」

― 「最後に、先生に一言！」

子供たち

― 「楽しいから、もっともっと勉強をおしえてほしい」

― 「2年生になると勉強もむづかしくなるから、もっと勉強をおしえてほしい」

― 「いまもやさしいけど、もっとやさしくしてほしい」

みなさん

― 「協力ありがとうございました。」

お知らせ information

1月の救急診療のご案内

1 休日の救急診療

(1)内科・小児科・外科・歯科の昼間（午前9時～午後6時）

長岡市健康センター内（長岡市西千手2-5-1）
・長岡休日急患診療所 ☎35-8255
・長岡休日急患歯科診療所 ☎33-9644（午後4時まで）

(2)産婦人科および夜間

区分	在宅当番医院	午前9時～翌午前9時
診療科目	産婦人科	内科・小児科・外科・産婦人科
1日(祝)	長岡西病院	立川総合病院
2日(土)	丸岡医院	長岡赤十字病院
3日(日)	トマト・レディス・クリニックス	長岡中央総合病院
10日(日)	明石医院	立川総合病院
15日(祝)	斉藤医院	長岡中央総合病院
17日(日)	小林医院	長岡赤十字病院
24日(日)	杉本医院	長岡中央総合病院
31日(日)	長岡西病院	立川総合病院

1月の納税・納入

- ◇ 村民税
- ◇ 国民健康保険料
- ◇ 国民年金保険料
- ◇ 保育所保育料
- ◇ 幼稚園保育料

老人保健施設でらどまり パート清掃職員募集のお知らせ

老人保健施設でらどまりでは、次のとおりパート清掃職員を募集します。

- ◆ 募集人員 / 1名
- ◆ 採用要件 / 55歳までの方で健康、明朗で男女問いません。
- ◆ 就業時間 / 4時間から5時間程度
- ◆ 受付時間 / 平成11年1月4日から1月31日まで
- ◆ 採用年月日 / 平成11年4月より
- ◎ 応募、問い合わせ先
老人保健施設でらどまり（寺泊町大字下桐850-1） ☎97-3200まで

みんなで防ごう住宅火災

Q なぜ、ストーブの上で洗濯物を乾かしてはいけないの？
A 暖まった空気が上昇すると、空気の流れて洗濯物が風に吹かれたようになって、ストーブの上に落ちる



ゆめあり君の伝言板

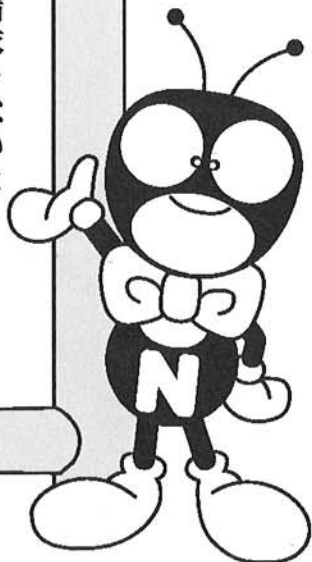
年金は請求しないと受けられません

年金は、支給要件を満たしていても、本人の請求がなければ支給されません。老齢基礎年金の支給開始年齢は原則として65歳ですが、65歳になっても自動的に老齢基礎年金は支給されません。65歳になったら「裁定請求書」をお住まいの市町村役場に提出してください。（支給の繰り上げ・繰り下げを希望する人は、支給開始を希望したときに提出します。）

ただし、特別支給の老齢厚生年金を受けている人は、65歳到達月に社会保険業務センターから、ハガキ形式の裁定請求書が送付されますので、必要事項を記入し、市町村長の証明を受けて投函してください。

国民年金には、このほか障害の状態になったときの障害基礎年金、夫が死亡し、18歳までの子のある妻に支給される遺族基礎年金、第一号被保険者だけに支給される寡婦年金や死亡一時金があります。

これらの年金についても、支給要件を満たしていても本人の請求がなければ支給されません。該当していると思われるときは、市町村役場や社会保険事務所でご相談、ご請求ください。



村政功労表彰

12月17日(木)、議会本会議の席上で、和島村の村政の振興に尽くされた方に和島村表彰条例に基づき表彰式が行われ、表彰状と記念品が授与されました。

◆功労表彰

古室 栄さん
久住 一雄さん
村職員として、30年間在職されました。

看護力再開発講習会及び 再就業相談会のお知らせ

県では未就業看護職員を対象に再就業促進のための看護力再開発講習会及び再就業相談会を次の日程で実施いたします。

1. 看護力再開発講習会

◆日程 平成11年2月17・18・24・25・26日(5日間)

◆内容 講義「最新の看護業務について」、病院実習(希望する病院で2日間の実習)

◆場所 新潟県看護研修センター

◆申込期限 平成11年2月8日(月)

2. 再就業相談会

◆日程 平成11年2月26日午後1時から3時

◆内容 求人施設の採用担当者によるPRと採用条件等の説明

◆場所 新潟県看護研修センター内

◆申込期限 平成11年2月22日(月)

3. 申込、問い合わせ先

新潟県ナースセンター(新潟市川岸町2-11) 新潟県看護研修センター内
☎025-233-6011

平成11年度の 転作目標面積決まる

237・14ヘクタール

平成10年11月27日県から各市町村へ平成11年度の転作目標面積が示され、和島村へは、平成10年度とほぼ同面積の237・14ヘクタールが配分されました。

11年度も米需給安定対策(全国とも補償)・稲作経営安定対策(所得補償)両制度への全農家のセット加入により目標達成にご協力をお願いします。

―平成11年度転作目標面積―
237・14 ha
(10年度) 237・13 ha
―参考―加工用米(10年度同俵数)
うるち 1、303俵
もち 123俵



一月の一日から三日までが三が日。この期間は正月気分でのんびり過ごす方も多いことでしょう。

こうした習慣は、時代により、場所によって少しずつ違っているようですが、この三日間は、家族が晴れ着を着て集まり、おとそで新年を祝い、雑煮やおせち料理を食べるといのが、一般的ようです。そして、年始のあいさつに行ったり、反対に人が来たりします。

三が日

おせち料理はごちそうであり、三が日の間、料理などをしなくて済むための保存食でもあるようです。また、三が日は、朝は毎日雑煮、昼・晩もご飯を炊かずにおしる粉やきなこ餅を食べることも、珍しくありません。しかし、昔は餅を食べるのが楽しみだったのが、最近では正月といっても特に餅を食べることをしないで、いつもどおりパン食という家庭も多いのではないのでしょうか。



おせち料理はごちそうであり、三が日の間、料理などをしなくて済むための保存食でもあるようです。また、三が日は、朝は毎日雑煮、昼・晩もご飯を炊かずにおしる粉やきなこ餅を食べることも、珍しくありません。しかし、昔は餅を食べるのが楽しみだったのが、最近では正月といっても特に餅を食べることをしないで、いつもどおりパン食と

歯の健康 Q&Aコーナー

Q 歯肉が黒くて気になります。どうにかならないでしょうか。

A 歯肉は通常きれいなピンク色をしていますが、時々灰黒色や褐色の着色が見られることがあります。歯肉に見られる異常着色には、水銀や鉛などによる外来性色素着色と、全身疾患に付随して起こる内因性のもがあります。

一般的には、差し歯や金属冠の周囲に見られる灰黒色の着色と、歯肉全体に帯状に見られる褐色のメラニン色素沈着が多いようです。金属冠周囲の着色は、金属の細かな切削片が歯肉に入り込んだり、金属が歯肉を透かして見えたりして起こりますので、合わない差し歯や冠をなおしたり、周囲の歯肉を少し切除すればきれいになります。また、メラニン色素は、皮膚同様生理的なもので、病気ではありません。しかし、前歯の歯肉にメラニン色素沈着があると目立つことがあります。以前は手術で削り取ったりと治療が大変でしたが、現在では薬液塗布やレーザー治療などで比較的簡単に除去できますので、歯科医院にご相談ください。

新潟県歯科医師会

警察からのお願い!!

1月10日は、110番の日です

110番すると、警察本部の通信司令室につながります。こんなときは110番! 110番すると、係員が必要事項を尋ねますので、落ち着いて対応してください。

★ 事件や事故をみたとき。

★ 泥棒や犯罪の被害にあったとき。

★ 倒れている人をみたとき。

★ その他、急いで警察に知らせたいことがあるとき。

次の点に注意して電話をしてください。

★ まず、あなたが電話をかけている場所の説明をしてください。例えば、「〇〇町〇〇丁目目の公衆電話から電話しています」

★ 携帯電話は県境付近では、隣の県の110番につながることがあります。又、通話が途切れることがありますので、必ず立ち止まってお話しください。

★ 110番は、事件や事故が発生した時に使う緊急電話です。急がない困りごと相談相手などの交番・駐在所に相談ください。

110番5つのポイント

- ① 何があったのか? (交通事故、泥棒、喧嘩など)
- ② いつ、どこで、目標は? (い

言葉の履歴書

ピンからキリまで

「ピンからキリまで」といえば、一から十まで、トップからビリまで、最高から最低までといった意味に使われます。

この「ピン」はポルトガル語のピンタ(「点」の意)からきた外来語。サイコロの目の目、めぐりカルタ(花札の前身)の一点札などを指しました。他人の取り分の一部を勝手にかすめ取る「ピンをはねる」の「ピン」は、あたまの一部を指すと考えられますが、一割とする説もあります。

「キリ」も「ピン」と同様、ポルトガル語のクルス(「十字架」の意)から転じて十を指す外来語とされていますが、「切りがない」「切りを付ける」など、切れ目や区切りを示す日本語「切り」からきたとする説もあって、定かではありません。

めぐりカルタでは、もともと「ピン」は一点札のこと。「キリ」は一番多い十二点札のことでした。「ピン」が最低点、「キリ」が最高点だったわけです。現在とは逆の意味に使われていることになりました。

除雪作業にご協力ください!!

冬期間の道路交通を確保するため、除雪作業が行われます。安全で効率的に除雪ができるように、またその効果が十分生かされるように、みなさんのご理解と協力をお願いします。

沿道のみなさんに

― お願いすること ―

1. 路上駐車はしないでください
路上駐車があると、除雪車が進めなかったり、駐車車両のまわりに雪が残ったりして、除雪作業の妨げになります。また、夜間や吹雪の中での作業で事故につながる恐れもあります。

2. 除雪車には近寄らないように

除雪車は、前進・後退を繰り返して作業を行うことがあります。たいへん危険ですから近寄らないでください。特に、子供たちには絶対に除雪車の近くで遊ばせないように注意してください。

3. 玄関先の雪処理にご協力を

玄関や車庫前に残った雪は皆さんで処理をお願いします。

4. 樹木などの垂れ下がり

除雪により、樹木・竹などが道路上に垂れ下がることがあります。交通の支障になるものについては、その処理にご協力ください。

5. 消火栓に注意

消火栓のまわりには、雪を置

かないようにお願いします。

6. 道路に雪を捨てないように

家庭用のスノーダンプで玄関先や庭先の雪を道路に放置する方を見受けまます。歩行者や車の通行の妨げになりますので、除雪の前後にかかわらず道路に出さないでください。

7. 早朝・夜間作業について

除雪作業は、早朝や夜間の作業が多いため、騒音等でご迷惑をおかけすることが多いと思えますが、ご理解をお願いします。

8. 消雪パイプの運転休止時間について

消雪パイプは、日中2時間の運転休止時間が設けられています。休止時間中は、多少シャベル状の雪が残ることがありますが、ご了承くださいませ。よろしくお願いします。

◎積雪期間中は道路が狭くなり、歩行者にとっても、車にとっても通行条件が悪くなっています。お互いに相手を思いやり、交通安全に十分注意しましょう。

* 問い合わせ先は

・村道に関すること
和島村役場地域開発課

(☎74-3111 内線247)

・県道に関すること
与板土木事務所維持管理課

(☎72-3185)



住宅金融公庫北関東支店からの お知らせ

リストラ、転職、退職等で、公庫の住宅ローンの返済が困難になっている方
返済期限を10年間延長できます。場合によっては、金利を下げて、最長3年間利息のみの支払いとすることもできます。

◎詳しくは、住宅金融公庫北関東支店(☎027-232-6665 7)までお問い合わせください。